

令和元年度 第1回温海地域振興懇談会 会議概要

○期 日 令和元年10月29日(火) 午後1時30分～午後3時45分

○会 場 鶴岡市温海庁舎 6階大会議室

○次 第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 委員紹介
4. 地域振興懇談会開催趣旨説明並びに会長・副会長の選任
5. 報 告
温海地域振興計画及び温海地域まちづくり未来事業計画の概要
について
6. 協 議
 - (1) 温海地域振興計画及び温海地域まちづくり未来事業の進捗状況
について
 - (2) 温海地域まちづくり未来事業の令和2年度以降の事業展開方針
について
 - (3) その他
7. 閉 会

○公開・非公開の別 公開

○傍聴者の人数 なし

○会長、副会長の選任

会 長 佐藤静夫委員(温海地域自治会長会会長)

副会長 佐藤満也委員(出羽商工会温海支部代表理事)

○委員発言の概要

【温海地域振興計画及び温海地域まちづくり未来事業の進捗状況について】

【温海地域まちづくり未来事業の令和2年度以降の事業展開方針】

A委員

まちづくりの視点として、「話題性」「話題性の共感」「将来に向けた価値観」「価値創造やビジョン」「一貫性と継続性」が重要。途中で消滅させないよう慎重に進めていただきたい。

B委員

- ・温海地域には資源が多いが、多すぎて焦点を絞れないのが弱点になっているのではないか。
- ・「北前ガニ」のブランド化を県が進めているが、地域の発展につなげるためには、県、市、地域がしっかり連動する必要がある。
- ・新たな「道の駅」計画についてはもっと盛り上がりが必要。また、水産業との連携が必要である。道の駅だけ儲かればよいのではなく、地域の産業も連動していくべき。
- ・地域の良いものにスポットをあて、それに様々付加していくことをしないと持続性に欠ける。
- ・高校生の通学支援については更なるPRが必要。

C委員

- ・愛寿園の送迎バスの空き時間を買物ツアーに活用する「愛あいバス」は、買い物支援に加え高齢者同士の交流を促す観点で喜ばれる取組であり、拡充とPR強化を願う。
- ・小学生のスクールバス待合の環境について、雨風しのげる対策が必要。

市

- ・愛あいバスの事業を拡大するため、温寿荘の送迎バスの活用を検討し、今年度中に運行を予定している。課題は、参加者を集めることとバスに添乗してくれる方を集めること。
- ・スクールバス待合については、雨風しのげるものを新設するのは困難で、しのげる既設場所を待合にする方法も考えられる。

D委員

- ・桜並木の更新など景観整備が進んでいる一方で、空家や廃業旅館の対応も考えないと温泉街全体の魅力向上につながらない。
- ・温泉街の空き地に何かしらの誘致策を検討するべき。

市

- ・空家等については、管理者（団体）はわかっているが修繕が進まない、修理してもらえないという例が多く市でも頭が痛いところ。本所環境課とも情報共有しながら、状態がひどい物件から少しずつ対応していくしかない状況。

E委員

- ・鼠ヶ関地域と第4地区においては6月18日の地震被害の復興が最優先になっているというのが現状。
- ・新たな道の駅の計画が進んでいないように感じるので、具体的に進めていくべき。
- ・蓬莱塾主催イベントを実施しており地域振興に寄与していると思うが、温海地域全体のイベント開催日の重複があり日程調整が必要と感じる。

市

- ・新たな道の駅については、市長から運営計画が先決という指示を受けており、現在運営計画の作成を進めている。そのうえでハード整備に取り組んでいく予定。
- ・イベント開催日の重複については、実施主体が異なるため日程調整が難しい。例えば時期を変えると売るものが変わる等いろいろな問題もある。

F委員

- ・福栄保育園の継続に前向きな取組は地域にとってもありがたい。
- ・人口減少が進む中、それに対して悲観的になりすぎても何も変わらない。地域の悪口を言わずに良いところを見つける気構えが肝要。
- ・「資源」をどう活かしていくかが重要で、いくら資源があっても利用しなければ無いと同じ。
- ・資源の活かし方は予算規模ではなく「失敗したとしてもそんなに負担のかからないよう」「皆が参加できるようなもの」レベルでよいのではないか。
- ・温海地域の基幹であるあつみ温泉や鼠ヶ関周辺の取組に対し、他の集落が応援する型でよいのではないか。
- ・みんな元気で「おらほの村はいい村だ」と言える雰囲気づくりを、計画を進める過程でできたら良い。
- ・「焼畑あつみかぶ」の販売単価の成果目標230円/kgは安すぎる。生産者の生産意欲が出るような設定を望む。

市

- ・福栄保育園について、現段階では園児10名程見込めるが、保育園の経営としては20名程必要であつみ福祉会としては厳しい状況となっている。

G委員

- ・マスコミ放映の効果もあり、遊ったりやでの「かぶ漬け体験」や「しな織体験」の予約が多く入っているが、地震の影響か温泉街を散策するお客様は減少していると感じる。
- ・地震被害による朝市店舗等への悪影響が心配。
- ・温泉街にクマが出没したが、子供たちが安心して通学できる体制を望む。

H委員

- ・山形県沖地震について、日頃の防災訓練の効果もあり指定場所への一次避難はできた

が、防災無線が聞こえなかった事実を検証し、災害時の情報伝達の徹底を望む。

- ・地震被害の影響で温海ふれあいセンターホールが使用不可となったが、多くの行事が中止となったのは残念。林業センターや小中学校での開催や規模縮小での開催も考えられたと思う。
- ・婦人会の会員の減少が著しいので委員の皆さんからも参加を呼び掛けてほしい。

市

- ・防災無線については、停電が原因と思われていたが、そうではないことが確認された。ラッパの向きを変えたり試行錯誤したが、現状不十分であり大きな課題であると認識している。

I 委員

- ・街路灯のLED化やフラワー整備など実効性のある計画となっているので推進ありがたい。
- ・毎年検証していく中で、更なる課題も出てくると思うが、こういった場で協議しながら、さらに前進していく計画であればと思う。

J 委員

- ・例えば集落に一つしかない商店が廃業すると買い物難民が発生する。低利の貸付制度や各種支援制度、出店希望者とのマッチングなどを活用し「火を消さない」フォローについて、商工会、行政の連携が必要。
- ・商工会も会員数の減少が課題となっている。人口減少は致し方ないという意見もあるが、何とか対策を打つべきと考える。そのためにも、市の施策など周知徹底を望む。
- ・温海地域の魅力に、住んでいる人たちが気づいてないと感じるので、懇談会等を通じて様々議論を深めていけたらと思う。
- ・懇談会委員について、今後の地域づくりを考えるためには若いメンバーの選出を望む。

市

- ・若者との意見交換については懇談会とは別として考えている。

K 委員

- ・少子高齢化対策の問題に対する対応を念頭に置き事業展開している。その中でも遊休農地をいかに活用していくか、耕作放棄地の解消をどう図っていくかが問題であり、あつみ農地保全組合を事業主体とし温海地域全体に波及させていく戦略を進めている。
- ・戦略を進めるにあたり、集落単位でうまくいかないものは複数集落での事業展開にシフトする準備もしている。
- ・個人での農業は限界にきており、集約化、共同化にシフトする必要がある。それを念頭に、農地保全組合を中心に集落を越えた集約を進めていきたいし、実現すれば温海の農業は劇的に変わる。

- ・鳥獣被害対策として、被害にあわない、温海らしい作物栽培を奨励してはどうか。
- ・新たな道の駅の整備に関して、先日訪れた愛知県岡崎市の道の駅が参考になった。「子供の遊び場エリア」「充実したフードコート」「地元産物が豊富」等々。
- ・「里山の小動物で子供も楽しめる」「温海地域の養蚕を活かす」といった温海らしい視点を加えながら道の駅整備を考えてはどうか。
- ・温海の農業を衰退させないために、農地保全組合は「外部人材を活かす」「勤める農業」といった体制に整えていきたいと考えている。
- ・地域の農産物が充実すれば、旅館・ホテル・商工等への波及効果が期待できるはず。

会長

- ・越沢三角そば生産拡大について、越沢関係者によると「まやのやかた」で使用する分だけしか生産していないということだったが、生産量が伸びたときの販路については、そば振興会と相談して進めていくことが一つの考え方と思う。

I 委員

- ・地震避難の際、防災訓練等で定めた一次避難所とは異なる場所への避難誘導があった。指令先は不明だが、消防団方面隊、自主防災会、自治会との情報共有を今一度徹底すべきと感じた。
- ・地震避難について、停電時でも有線放送により温泉地内への周知が可能だったが、機器操作方法の引き継ぎができていなかったのが反省材料である。

A 委員

- ・人口減少は避けられないとしても、温海地域の経済の縮小は避けなければならない。
- ・一人あたりの稼ぐ力を高めるには、温海地域に働く場が少ないことから、地域外で稼いだお金を地域内の消費にまわすという循環型の地域経済を作り出すことが必要。
- ・温海地域に住みながら、循環型の地域経済を作り出すためには「道路改良」による通行性の向上が不可欠である。

D 委員

- ・高齢化といいつつ老人クラブ組織の弱体化を感じる中、高齢者福祉対策にも取り組むべき。
- ・高齢者の福祉対策に加え生産活動にも取り組める環境づくり、地域振興に寄与できる方法はないものか思案している。
- ・行政は高齢者対策に尽力されているが、老人クラブとの接点が弱いと感じるので、社会福祉協議会や行政等ともっと接点を持てれば成果が上がると思っている。